

平成23年6月27日

岐阜県中小企業団体中央会
会長 辻 正 様

岐阜県高等学校長協会
会長 鹿野 孝 紀

要 望 書

日ごろは、本県の高等学校及び特別支援学校の教育につきまして、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本県では、近年の厳しい雇用情勢の下、前年度をさらに下回る過去最低の求人倍率（1.20倍）にもかかわらず、平成23年3月新規高等学校卒業者の就職内定率は、厚生労働省調査99.6%、文部科学省調査96.0%に達し、前年度を上回る結果になりました。このことは、貴団体をはじめ関係者の皆様方の格別のご理解とご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

本年度につきましても、平成24年3月新規高等学校卒業予定者への求人活動が始まりました。未曾有の甚大な多重被害をもたらした東日本大震災から3か月過ぎましたが、復旧・復興の道筋は困難を極めており、今後の経済や雇用の見通しが立ちにくい状況となっております。高等学校関係者としましては、来春の新規高卒者の就職見通しについて大変心配しているところです。

本県には、高等学校を卒業後ただちに就職を希望する生徒が例年4千人以上いますが、就職が厳しいことから止むを得ず進学希望に変更していく生徒もいます。各学校の進路指導担当者が事業所を繰り返し訪問させていただき、採用のお願いを申し上げているところではありますが、どうか将来の地域と産業を担う若者に希望や適性等を生かすことのできる職場を提供していただきますよう、特段のご理解とご配慮をお願い申し上げます。

1 求人確保、採用枠の拡大について

新規高卒者の県内就職率は例年75%前後と高く、県内企業に支えられております。今後とも、岐阜県の将来を担う優秀な生徒が一人でも多く岐阜県で働く機会を与えていただきますよう格別のご配慮をお願いいたします。

2 インターンシップ等の機会の提供について

県内の高等学校及び特別支援学校におきましては、進路指導の重点として「キャリア教育の推進」を掲げ、望ましい勤労観・職業観の育成を目指して、インターンシップや産業現場見学、企業関係者を講師とする進路講話等の実施など、啓発的体験学習を積極的に進めております。キャリア教育の一層の充実に向けて、インターンシップの受け入れなど、貴団体所属会員の皆様方にご理解とご支援をいただけますようお願いいたします。

3 岐阜県内における高等学校卒業者の就職慣行について

本県の就職慣行申し合わせにおきましては、本年から11月1日以降、一人2社の応募・推薦が可能となりました。高等学校としましてはこの就職慣行申し合わせの実施による混乱がないよう、生徒や保護者への説明に努めておりますが、貴団体におかれましても円滑に運用されるよう関係企業に周知をお願いいたします。

4 特別支援学校卒業生への支援について

県内特別支援学校高等部では、生徒の障がいに応じて職業教育や就業体験を実施するとともに、各種援助制度を利用しながら卒業後の就業生活が実現できるよう取り組んでいます。昨年度高等部卒業生319人の内一般就労は110人（34.5%）でしたが、来春卒業予定者はさらに30人増加します。障がい者雇用についても、特段のご理解とご配慮をお願いいたします。